

平成 18年 11月 9日

各 位

社団法人 土木学会  
技術功労賞選考委員会  
委員長 依田 照彦  
(公印省略)

平成18年度 技術功労賞候補者の推薦について (ご依頼)

拝啓 時下益々ご清栄の段お慶び申し上げます。

日頃から当学会の運営に関しまして、格別のご指導ご協力を賜りましてまことにありがたく厚く御礼申し上げます。

さて、「技術功労賞」は、土木学会80周年のおり国際貢献賞と共に新たに設置され、隔年ごとに授賞選考を行っておりましたが、平成11年度から毎年選考することとなりました。なお、従来から施行していた「功績賞」とは性質を異にし、人目につきにくい業務に長年にわたって従事するとともに、地道な実務の積み重ねを通じて土木工学の進歩発展に功労のあった者に対して授賞を行っております。

つきましては、推薦書を同封お送りさせていただきましたので、趣旨をご理解いただき、貴団体傘下の企業等に周知方お願いすると共に、該当の方がおられましたら直接ご推薦いただきたくお願い申し上げます。

敬具

(同封致しましたもの)

- ・ 推薦書用紙 (インターネットで土木学会ホームページからも取り出すことができます)  
<http://www.jsce.or.jp/prize/bosyu.shtml>
- ・ 「平成18年度土木学会賞候補の募集」

(推薦書提出締切日)

平成19年1月19日 (金) (必着)

(ご送付先)

〒160-0004 東京都新宿区四谷一丁目 (外濠公園内)  
土木学会技術功労賞選考委員会 宛

# 平成18年度 土木学会賞候補の募集

附：吉田研究奨励賞の募集、  
土木学会委員会所管の表彰制度紹介

本年度土木学会賞候補の募集ならびに吉田研究奨励賞の募集をいたします。表彰規程および別記募集要項をご参照のうえ、ふりって推薦または応募されますようお願いいたします。推薦（応募）書用紙は下記の本会ホームページから取り出せます。

土木学会賞のうちの功績賞については公募いたしません。なお、同一の候補について同一の方から2以上を各賞候補として推薦または応募されることは認めません。また、同一の候補について別々の方から2以上を各賞候補として推薦または応募された場合は、推薦者等相互間で調整していただくことがあります。

- ◎平成18年度より、論文賞、出版文化賞の応募締切日は他賞よりも1ヶ月早く、12月20日となりますので、ご注意ください。
- ◎平成18年度より、環境賞は応募グループ区分が変わり、候補対象が広がりました。
- ◎来年度（平成19年度）より、論文賞および論文奨励賞の候補対象が変更になります。1-7頁に詳細を記載してありますので、ご確認下さい。

## 社団法人 土木学会

〒160-0004 / 東京都新宿区四谷1丁目（外濠公園内）

TEL 03-3355-3442 / FAX 03-5379-0125

E-mail :office@jsce.or.jp

http://www.jsce.or.jp

■土木学会賞候補募集要項

| 種別項目     | 技術賞   | 環境賞  | 論文賞   |
|----------|---|--|---|
| 候補対象     | <p>【Iグループ】<br/>具体的なプロジェクトに関連して、土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与したと認められる計画、設計、施工または維持管理等の画期的な個別技術(情報技術、マネジメント技術を含む)。</p> <p>【IIグループ】<br/>土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与したと認められる画期的なプロジェクト。</p> | <p>【Iグループ】<br/>環境への負荷を低減する土木技術・システムを開発・運用し、良好な環境の保全・創造に貢献した画期的な業績およびプロジェクト。</p> <p>【IIグループ】<br/>環境の保全・創造に貢献した先進的かつ国際的な研究。</p> <p>※今年度よりグループ区分が変わり候補対象が広がりました。昨年まで区分されていた業績とプロジェクトの候補をグループIにまとめ、新たにグループIIを新設しました。</p> | <p>【論文賞】<br/>原則として、土木学会誌、土木学会論文集、その他土木学会の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、独創的な業績をあげ、これが土木工学における学術・技術の進歩、発展に顕著な貢献をなしたものを。</p> <p>【論文奨励賞】<br/>原則として、土木学会誌、土木学会論文集、その他土木学会の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術・技術の進歩、発展に寄与し、独創性と将来性に富むもので、受賞者の年齢が平成19年の4月1日現在で満36歳未満であるもの(生年月日も併記する)。</p> |
| 受賞候補者    | <p>【Iグループ】<br/>個人あるいは団体。</p> <p>【IIグループ】<br/>プロジェクト。</p>  | <p>【I、IIグループ】<br/>個人あるいは団体。</p>  | <p>応募時点において本会個人会員および海外の協定協力学会会員の個人に限る。</p> <p>過去に論文賞を受賞した者は再び受賞候補者となり得るが、論文奨励賞を受賞した者は同一の賞の候補者になることができない。</p> <p>なお、同種のテーマで同時に論文賞・論文奨励賞の候補者になることはできない。</p> <p>共著者に受賞候補になることができないものが含まれていることは差支えない。</p> <p>共著者を受賞候補者から省いて推薦する場合は、必ず受賞候補者の当該論文(研究)に対する貢献度を具体的に明記すること。</p>                        |
| 候補の範囲    | <p>平成17年1月1日から平成18年12月31日までの間におおむね終了した業績とする。</p>  | <p>平成14年1月1日から平成18年12月31日までの間に終了した業績、プロジェクトおよび研究とする。ただし、継続中の業務、プロジェクトおよび研究であっても十分な実績が得られていると考えられるものは、候補対象とする。</p>  | <p>平成17年1月1日から平成18年12月31日までの間に発表されるもので、原則として、土木学会誌、土木学会論文集、その他土木学会の刊行物に搭載されたものに限る。</p> <p>なお、同一の課題につき当該期間およびそれ以前においても論文が発表されている場合には、前掲に該当する論文にその過去における発表論文を加えて総合題目として候補の対象とすることもできる。</p>  |
| 推薦の方法    | <p>推薦者は会員、支部、土木事業に関連する学・協会、法人とする。</p> <p>推薦者は別に定める推薦書、候補業績の要旨各1部を提出する。</p> <p>なお、当該業績に関する参考資料を添付することを妨げない。</p>  | <p>推薦者は会員、支部、土木事業に関連する学・協会、法人とし、自薦を可とする。推薦者は別に定める推薦書1部と、候補業績の要旨(A4版)30部を提出する。</p> <p>なお、当該業績に関する参考資料を添付することを妨げない。また、参考資料を添付の場合は、推薦書に添えてA4版用紙にて30部提出しなければならない。</p>  | <p>推薦者は会員(個人、団体)、支部、その他一般とするが、会員自らの応募であってもよい。</p> <p>応募に必要な提出物は以下のとおり。</p> <p>①別に定める様式による推薦書1部</p> <p>②推薦論文(別刷またはコピー可)8部</p> <p>③総合題目として推薦または応募する場合はその概要(別紙)1部</p> <p>④その他、推薦者が審査にあたって必要と思われる資料があれば8部</p> <p>なお、審査にあたっては別途必要に応じて資料の追加提出を求めることがある。</p>   |
| 審査       | <p>表彰委員会において行う。</p>   | <p>環境賞選考委員会において行う。</p>   | <p>論文賞選考委員会において行う。なお、必要あるときにはさらに資料50部の追加提出を求めることがある。</p>  |
| 内容の説明の有無 | <p>推薦者または推薦者の指定する代理人に出席を求め説明を受ける(実施については事務局から別途通知する)。説明の際に使用できる機器:パソコン(html形式またはパワーポイントで作成すること)</p>   | <p>推薦者または推薦者の指定する代理人に出席を求め説明を受けることがある(実施の有無、期日等については事務局から別途通知する)。説明の際に使用できる機器:パソコン(html形式またはパワーポイントで作成すること)</p>  | <p>開催しない。</p>   |
| 表彰       | <p>通常総会において、賞状、賞牌を贈る。</p>   | <p>通常総会において、賞状、賞牌を贈る。</p>  | <p>通常総会において行い、賞状、賞牌、賞金を贈る。</p>  |
| 期日切      | <p>平成19年1月19日(金) (必着)</p>   |  | <p>平成18年12月20日(水) (必着)</p>  |
| 提出先      | <p>〒160-0004<br/>東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内)<br/>土木学会 表彰委員会<br/>TEL 03-3355-3442</p>   | <p>〒160-0004<br/>東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内)<br/>土木学会 環境賞選考委員会<br/>TEL 03-3355-3442</p>   | <p>〒160-0004<br/>東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内)<br/>土木学会 論文賞選考委員会<br/>TEL 03-3355-3442</p>  |

注:推薦(応募)書用紙は本会ホームページより取り出せます。取り出せない場合は、土木学会本部企画総務課または各支部にお問合わせください。

| 吉田賞   | 田中賞  | 技術開発賞   |
|---|--|---|
| <p><b>【研究業績部門】</b><br/>コンクリートに関する技術の進歩、発展に顕著な業績を挙げたと認められる者を対象とする。</p> <p><b>【論文部門】</b><br/>土木学会の刊行物に発表されたコンクリートに関する単独の論文、報告等で、コンクリート工学の発展に大きく貢献したと認められるものを対象とする。</p>  | <p><b>【研究業績部門】</b><br/>橋梁に関する技術の進歩、発展に顕著な業績を挙げたと認められる者を対象とする。</p> <p><b>【論文部門】</b><br/>土木学会刊行物に発表され、計画、設計、製作・施工、維持管理、考案、歴史などに関連して橋梁工学の発展に大きく貢献した、論文、報告を対象とする。</p> <p><b>【作品部門】</b><br/>橋梁およびそれに類する構造物の新設または改築で、計画、設計、製作・施工、維持管理などの面において特色を有する作品を対象とする。なお、構造物に適用された特殊な技術、革新的な技術も作品とみなす。また、規模の大小は問わない。</p>   | <p>計画、設計、施工、または維持管理等において、創意工夫に富むと認められる技術(情報技術、マネージメント技術を含む)を開発、実用化し、土木技術の発展を通じて、社会に貢献したと認められる者。</p>   |
| <p><b>【研究業績部門】</b><br/>本会会員の個人とする。<br/>ただし、既受賞者(研究業績部門で昭和60年度以降授与された者)は受賞候補者となることはできない。</p> <p><b>【論文部門】</b><br/>本会会員あるいは海外の協定協力学会の会員で、個人またはその複数。<br/>なお、共著者の一部を除いて受賞候補者を推薦する場合、推薦者は必ず受賞候補者の貢献について具体的に明記すること。</p>           | <p><b>【研究業績部門】</b><br/>本会会員の個人。ただし、既受賞者(研究業績部門)は受賞候補者となることはできない。</p> <p><b>【論文部門】</b><br/>本会会員および海外の協定協力学会の会員で、個人またはその複数。ただし、共著者を受賞候補者から省いて推薦する場合は、必ず受賞候補者の貢献度を具体的に明記すること。</p> <p><b>【作品部門】</b><br/>作品自身を対象とする。</p>  | <p>ひとりまたは複数(5名以内)の個人。<br/>ただし、ひとりの場合は土木学会正会員とし、複数の場合は、土木学会正会員(個人)が1名以上参加し、主要な役割を果たしているものとする。</p>  |
| <p><b>【研究業績部門】</b><br/>平成14年1月1日から平成18年12月31日まで(5年間)の間に、各種刊行物に発表された論文、設計・施工・計画・考案などの報告等を参考とする。<br/>なお、同一の問題につき、当該期間以前において発表されたものを加えて総合題目とすることもできる。</p> <p><b>【論文部門】</b><br/>平成17年1月1日から平成18年12月31日まで(2年間)の間に発表されたものとする。</p> | <p><b>【論文部門】</b><br/>平成17年1月1日から平成18年12月31日までの間に土木学会刊行物に発表された論文、報告で、原則として1編とする。</p> <p><b>【作品部門】</b><br/>平成17年1月1日から平成18年12月31日までの間に完成した作品を対象とする。完成の時期については、原則的には供用開始のときとする。なお、その他一連の工事の一部としての橋梁等の構造物では、そのもの自身が完成したと見なされるときとする。ただし、軌道、舗装等は未施工でもよい。</p>   | <p>技術開発の行われた時期は問わないが、おおむね、最近5年以内に実績が認められ、その技術内容が技術雑誌等に公表されたものとする。</p>   |
| <p>推薦者は、会員、その他一般とする。なお、論文部門については自らの応募であってもよい。<br/>推薦者は、別に定める様式による推薦書1部を提出する。<br/>推薦者は、候補者により発表された論文、報告等を推薦書に添えて研究業績部門にあっては27部、論文部門にあっては8部提出しなければならない。なお、必要があるときには、追加提出を求めることがある。</p>  | <p><b>【研究業績部門】</b><br/>推薦者は本会会員(個人、団体)、支部、その他一般とする。<br/>なお、自らの推薦は認めない。推薦者は別に定める様式による推薦書1部を提出する。<br/>参考論文等が土木学会誌、土木学会論文集以外に発表されている場合は、推薦書に添えてコピー28部(A4版)を提出しなければならない。</p> <p><b>【論文部門】</b><br/>推薦者は、本会会員(個人、団体)、支部、その他一般とする。なお、自らの推薦でもよい。<br/>推薦者は、別に定める様式による推薦書1部と、候補論文のコピー28部(A4版)を提出しなければならない。</p> <p><b>【作品部門】</b><br/>原則として受賞候補に関与した当事者が別に定める応募調書を、コピーを含めて28部を提出する(写真(鮮明なカラーコピーでも可)はおのにおに添付すること)</p> | <p>推薦者は、会員、支部、土木專業に関連する学・協会および法人とし、自らの応募は認めない。推薦者は、別に定める(ホームページ参照)応募調書、当該業績に関し技術雑誌等に発表された資料(コピー可)を各1部、技術概要書(A3版横長)を22部提出する。<br/>なお、必要に応じ資料部数の追加を求めることがある。</p> |
| <p>吉田賞選考委員会において行う。</p>  | <p>田中賞選考委員会において行う。<br/>なお、必要のあるときは、さらに関係資料の提出を求めることがある。</p>  | <p>技術開発賞選考委員会において行う。</p>  |
| <p>開催しない。</p>   | <p>作品部門については、内容説明会を開催するので、候補関係者はこれに出席して作品の内容を説明しなければならない(実施については事務局から別途通知する)。<br/>説明の際に使用できる機器：パソコン(html形式またはパワーポイントにて作成すること)</p>  | <p>候補者に出席を求め説明を受ける。説明の際にパソコンが使用できる(実施については事務局から別途通知する)。</p>   |
| <p>通常総会において行い、賞状、賞牌、賞金を贈る。</p>  | <p>通常総会において行い、研究業績部門、論文部門、作品部門の受賞者(作品)に対して、賞状および賞牌を贈る。</p>   | <p>通常総会において行い、賞状、賞牌を贈る。ただし、受賞者が複数の場合は、賞状は全員に贈り、賞牌は代表者に贈る。</p>   |
| <p>平成 19 年 1 月 19 日(金) (必着)</p>   |  |   |
| <p>〒160-0004<br/>東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内)<br/>土木学会 吉田賞選考委員会<br/>TEL 03-3355-3442</p>  | <p>〒160-0004<br/>東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内)<br/>土木学会 田中賞選考委員会<br/>TEL 03-3355-3442</p>   | <p>〒160-0004<br/>東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内)<br/>土木学会 技術開発賞選考委員会<br/>TEL 03-3355-3442</p>  |

注：海外の協定協力学会会員については、それを証明するものを添付ください。海外の協定協力学会名は、1-7頁をご覧ください。ご不明な点は企画総務課(TEL 03-3355-3442)へお問合せください。

注：各賞に関わる事前説明は固くお断りいたします。

■土木学会賞候補募集要項

| 種別項目       | 出版文化賞  | 国際貢献賞   | 技術功労賞  |
|------------|--|---|--|
| 候補対象       | 出版文化賞は土木に関連する出版物で、土木工学、土木技術の発展に貢献し、あるいは読者に感銘を与えることにより、土木文化の活動の一環となりうると思われる出版物を対象とし、その著者を表彰する。  | 【国際貢献賞】<br>海外における土木工学の進歩発展あるいは社会資本整備に貢献し、現地で高く評価された日本人、並びに日本の土木工学の発展、土木技術の国際交流に貢献したと認められた外国人。<br>過去に国際活動奨励賞を受賞したのも国際貢献賞の受賞候補者となりうる。<br>【国際活動奨励賞】<br>海外における土木工学の進歩発展あるいは社会資本の整備において、現地国での土木技術の発展に独創性をもって寄与し、国際貢献への活動が今後とも期待される日本人技術者で、平成19年4月1日現在で満50歳以下であるもの。 | 長年にわたり人目につきにくい業務に従事し、地道な実務の積み重ねを通じて土木工学の進歩発展に功労のあった者。<br>技術功労賞の対象分野としては、次の6分野がある。<br>(1)教育・研究・啓発<br>(2)調査・計画<br>(3)設計・監理<br>(4)用地・補償<br>(5)施工・検査<br>(6)管理・運用・防災・保全 |
| 受賞候補者      | 本会会員に限らない。   | 個人(本会会員の資格の有無を問わない)<br><br>「国際貢献賞」は、地道な国際的な貢献の積み重ねの成果に対して授与されます。この趣旨を十分にご配慮ください。  | 個人(本会会員の資格の有無を問わない)<br><br>「技術功労賞」は「功績賞」とは性質を異にし、人目につきにくい業務に長年にわたって従事するとともに、地道な実務の積み重ねの成果に対して授与されます。この趣旨を十分にご配慮ください。   |
| 候補の範囲      | 以下の条件を満たす出版物を候補対象とする。<br>(1)平成15年12月21日から平成18年12月20日の3年間に発行された出版物とする(注、今年度から推薦締切日を1ヶ月早めましたのでご注意ください)。<br>(2)市販された出版物あるいは図書館などでの公開が保証されている出版物(電子出版物を含む。ただし土木学会出版物は除く)。<br>(3)新規の著作として一定の水準を確保している出版物(ハンドブック、マニュアル、便覧の類、資格試験参考書、あるいは改訂版で一部のみが改訂されたもの等は除く)。<br>(4)特に複数の執筆者等による共著、共訳においては、それぞれの執筆個所が明記されるなど各著者等の対象作品における貢献度合いが明瞭に判別できる出版物。<br>注)なお詳細は出版文化賞選考委員会HPに掲載の「土木学会出版文化賞候補・推薦にあたっての留意点」を参照のこと。                                  | 平成18年12月末までの業績とする(平成18年度)。  | 平成18年12月末までの業績とする。   |
| 推薦の方法      | (1)推薦資格者:本会会員に限る。<br>(2)推薦件数<br>・本会会員は2件以内。<br>・本会の理事、監事、支部長、委員会委員長、フェロー会員は3件以内。<br>・土木学会誌編集委員会委員長はブックウォッチャーのすすめに基づいて8件まで推薦できる。<br>(3)推薦の手続き<br>・推薦作品に関わる下記の項目を所定の推薦用紙(HPに掲載)にて出版文化賞選考委員会宛提出する(提出方法は郵便、FAX、E-mail等いずれも可)。<br>a.推薦者氏名・会員種別<br>b.推薦者所属<br>c.推薦者連絡先(住所・電話番号・FAX番号・E-mailアドレス)<br>d.推薦作品名・著者・発行所・発行年月日<br>e.推薦文(推薦作品の優れている点、土木への貢献度を500字以内にまとめる)<br>注)市販されていない出版物の場合は推薦書に必ず1冊以上を添えて提出(寄贈)のこと。一般に市販されている出版物の場合は推薦書のみで可。 | ・推薦者は、会員、支部、土木專業に関連する学・協会・法人の代表者とする。<br>・推薦者は別に定める推薦書を一部提出する。<br>・なお、当該業績に関する参考資料を添付することを妨げない。  | ・推薦者は会員(個人、団体)、支部、その他一般とするが、会員自らの応募であってもよい。<br>・推薦者(応募者)は別に定める推薦書を1部提出する(18年度推薦書を使用する)。<br>・なお、当該業績に関する参考資料を添付することを妨げない。   |
| 審査         | 出版文化賞選考委員会において行う。  | 国際貢献賞選考委員会において行う。   | 技術功労賞選考委員会において行う。  |
| 内容説明会開催の有無 | 開催しない。   | 開催しない。  | 開催しない。   |
| 表彰         | 通常総会において行い、賞状、賞牌を贈る。ただし、共著者の場合は、賞状は全員に贈り、賞牌は代表者に贈る。また、同時に受賞作品の出版社に対して感謝状を贈呈する。なお、翻訳作品を受賞対象とした場合は、原著者、翻訳者を表彰する(この場合の表彰方法は委員会で定める)。  | 【国際貢献賞】<br>通常総会において、賞状・賞牌を贈る。<br>【国際活動奨励賞】<br>通常総会において、賞状を贈る。   | 通常総会において、賞状・賞牌を授与して行う。   |
| 期締切        | 平成18年12月20日(水)(必着)   | 平成19年1月19日(金)(必着)   |  |
| 提出先        | 〒160-0004 / 東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内)土木学会出版文化賞選考委員会<br>TEL:03-3355-3596 / FAX:03-3355-6055 / E-mail:library@jsce.or.jp<br>出版文化賞に関するホームページのアドレスは以下の通りです。推薦要項の他、過去の受賞作品の紹介なども掲載しておりますので、ご活用ください。<br>http://www.jsce.or.jp/committee/pub/prize/  | 〒160-0004<br>東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内)<br>土木学会国際貢献賞選考委員会<br>TEL.03-3355-3442   | 〒160-0004<br>東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内)<br>土木学会技術功労賞選考委員会<br>TEL.03-3355-3442  |

## 土木学会表彰規程

|                 |        |  |
|-----------------|--------|--|
| 【総則】            | 第1条    | 土木学会細則第41条による表彰は、この規程による。  |
| 【賞の種類】          | 第2条    | 表彰は、次の土木学会賞（総称）を授与して行う。<br>1. 功績賞 2. 技術賞 3. 環境賞 4. 論文賞 5. 吉田賞 6. 田中賞 7. 技術開発賞 8. 出版文化賞<br>9. 国際貢献賞 10. 技術功労賞   |
| 【功績賞】           | 第3条    | 功績賞は、本会会員であって、土木工学の進歩、土木專業の發達、土木学会の運営に顯著な貢献をなしたと認められたものに授与する。  |
| 【技術賞】           | 第4条    | 技術賞は、Iグループ：具体的なプロジェクトに関連して、土木技術の發展に顯著な貢献をなし、社会の發展に寄与したと認められる計画、設計、施工または維持管理等の画期的な個別技術（情報技術、マネージメント技術を含む）およびIIグループ：土木技術の發展に顯著な貢献をなし、社会の發展に寄与したと認められる画期的なプロジェクトに授与する。  |
| 【環境賞】           | 第5条    | 環境賞は、Iグループ：環境への負荷を低減する土木技術・システムを開発・運用し、良好な環境の保全・創造に貢献した画期的な業績およびプロジェクト、IIグループ：環境の保全・創造に貢献した先進的かつ国際的な研究に授与する。   |
| 【論文賞】           | 第6条    | 論文賞は、本会個人会員（海外の協定協力学会の個人会員は本会会員とみなす）であって、原則として土木学会誌、土木学会論文集、その他土木学会の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術の進歩發展に獨創的な業績を挙げ、顯著な貢献をなしたと認められたものに授与する。<br>(2) 論文奨励賞は本会個人会員（海外の協定協力学会の個人会員は本会会員とみなす）であって、原則として土木学会誌、土木学会論文集、その他土木学会の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術に関する進歩發展に寄与し、獨創性と将来性に富むものと認められ、受賞者の年齢が受賞年の4月1日現在で満36歳未満であるものに授与する。   |
| 【吉田賞】           | 第7条    | 吉田賞は、次の2部門に分けて授与する。<br>(1) 研究業績部門：コンクリートに関する技術の進歩、發展に顯著な業績を挙げたと認められる者を対象とし、各種刊行物に発表された論文、設計・施工・計画・考案などの報告等を参考とする。受賞候補者は本会会員の個人とする。<br>(2) 論文部門：土木学会の刊行物に発表されたコンクリートに関する論文、報告等で、コンクリート工学の發展に大きく貢献したと認められるものを対象とする。受賞候補者は本会会員の個人またはその複数とする（ただし、海外の協定協力学会の個人会員は本会会員とみなす）。   |
| 【田中賞】           | 第8条    | 田中賞は、次の3部門に分けて授与する。<br>(1) 研究業績部門：橋梁に関する技術の進歩、發展に顯著な業績を挙げたと認められる者を対象とする。受賞候補者は本会会員の個人とする。<br>(2) 論文部門：土木学会刊行物に発表された論文、報告の中で、計画、設計、製作・施工、維持管理、考案、歴史などに関連して橋梁工学の發展に大きく貢献したと認められる論文を対象とする。受賞候補者は本会会員で、個人またはその複数とする（ただし、海外の協定協力学会の個人会員は本会会員とみなす）。<br>(3) 作品部門：橋梁およびそれに類する構造物の新設または改築で、計画、設計、製作・施工、維持管理などの面において特色を有する作品を対象とする。なお、構造物に適用された特殊な技術、革新的な技術も作品とみなす。また、規模の大小は問わない。  |
| 【技術開発賞】         | 第9条    | 技術開発賞は、計画、設計、施工または維持管理等において、創意工夫に富むと認められる技術（情報技術、マネージメント技術を含む）を開発、実用化し、土木技術の發展を通じて、社会に貢献したと認められる者に授与する。  |
| 【出版文化賞】         | 第10条   | 出版文化賞は、土木に関連する出版物で、土木工学・土木技術の發展に貢献し、あるいは読者に感銘を与えることにより、土木文化活動の一環となりうると認められた出版物の著者を対象とする。   |
| 【国際貢献賞】         | 第11条   | 国際貢献賞は海外における土木工学の進歩發展あるいは社会資本整備に貢献し、現地で高く評価された日本人、並びに日本の土木工学の發展、土木技術の国際交流に貢献したと認められた外国人に授与する。<br>国際活動奨励賞は海外における土木工学の進歩發展あるいは社会資本の整備において、現地国での土木技術の發展に獨創性をもって寄与し、国際貢献への活動が今後も期待される日本人技術者に授与する。  |
| 【技術功労賞】         | 第12条   | 技術功労賞は、長年にわたり人目につきにくい業務に従事し、地道な実務の積み重ねを通じて土木工学の進歩發展に功労があった者に授与する。受賞候補者は個人とし、本会会員の資格の有無を問わない。   |
| 【委員会】           | 第13条   | 土木学会賞を授与するため次の委員会をおく。<br>1. 表彰委員会 2. 環境賞選考委員会 3. 論文賞選考委員会 4. 吉田賞選考委員会 5. 田中賞選考委員会 6. 技術開発賞選考委員会 7. 出版文化賞選考委員会 8. 国際貢献賞選考委員会 9. 技術功労賞選考委員会<br>(2) 表彰委員会は、功績賞、技術賞の受賞候補の選考をなし、環境賞、論文賞、吉田賞、田中賞、技術開発賞、出版文化賞、国際貢献賞および技術功労賞各選考委員会の具申を受けて、必要に応じて各賞間の調整を行い、土木学会賞受賞候補を決定する。<br>(3) 環境賞選考委員会は、環境賞候補の選考を行う。<br>(4) 論文賞選考委員会は、論文賞候補の選考を行う。<br>(5) 吉田賞選考委員会は、吉田賞候補の選考を行う。<br>(6) 田中賞選考委員会は、田中賞候補の選考を行う。<br>(7) 技術開発賞選考委員会は、技術開発賞候補の選考を行う。<br>(8) 出版文化賞選考委員会は、出版文化賞候補の選考を行う。<br>(9) 国際貢献賞選考委員会は、国際貢献賞候補の選考を行う。<br>(10) 技術功労賞選考委員会は、技術功労賞候補の選考を行う。<br>(11) 前記各委員会の構成、運営、その他については、別に内規で定める。 |
| 【報告】            | 第13条の2 | 専務理事は、前条に規定する各委員会の構成等について、理事会に報告しなければならない。   |
| 【賞の決定、表彰の時期・方法】 | 第14条   | 土木学会賞は理事会において決定し、表彰は原則として毎年1回通常総会において賞牌、賞状等を授与して行う。  |
| 附則              |        | この規程は、理事会の議決により変更することができる。   |

平成17年度の土木学会賞受賞者(敬称略)

功績賞  
技術賞

足立紀尚、長瀬重義、石原研而、山田善一、御巫清泰、首藤伸夫

Iグループ

阪神電気鉄道(株)、鹿島建設(株)、中央復建コンサルタンツ(株)/利便性および安全性の抜本的な改善を図った既設地下駅の大規模改造  
一阪神電鉄本線春日野道駅改造工事  
大阪府道路公社、熊谷・間・竹中土木・大豊・森本共同企業体/不良地山における日本一の超大断面道路トンネルの建設一箕面有料道路箕面トンネル(南工区)  
東京電力(株)、奥村組・フジタ・銭高組共同企業体、三菱重工業・酒井鉄工所共同企業体/わが国初の全断面TBMによる長大斜坑掘削と高張力鋼HT100を用いた水圧鉄管の施工一世界最大級の揚水式発電所 東京電力(株) 神流川発電所水圧鉄管路工事  
(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構 鉄道建設本部 東北新幹線建設局、佐藤・三井・地崎・田中共同企業体、清水・フジタ・伊藤・工藤共同企業体、鹿島・戸田・真柄・穂積共同企業体、奥村・青木・森本・寺下共同企業体、飛島・大日本・株木・鹿内共同企業体、前田・竹中・福田共同企業体/世界最長陸上トンネルの施工(東北新幹線 八甲田トンネル)  
京日本旅客鉄道(株) 上信越工事事務所、清水建設(株)、西松建設(株)、(株)間組共同企業体/わが国初の鉄道トンネルへの全断面TBM工法の適用に関する設計・施工技術一吾妻線代替ハツ場トンネル

IIグループ

(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構 鉄道建設本部 東京支社、首都圏新都市鉄道(株)/21世紀にふさわしいまちづくりと一体的に整備した鉄道新線一T拠点と結ぶつくばエクスプレスの建設  
東日本高速道路(株) 新潟管理局、東日本高速道路(株) 湯沢管理事務所、東日本高速道路(株) 長岡管理事務所/新潟県中越地震で被災を受けた高速道路の早期復旧  
国土交通省 九州地方整備局、国土交通省 大阪航空局/事業連携のメリットを生かした新北九州空港整備プロジェクト  
国土交通省 中国地方整備局/苫田ダムの建設一新たな試みによるコスト縮減と自然環境にやさしいダムづくり  
京日本旅客鉄道(株)/技術力を結集した震災の早期復旧工事一新潟県中越地震 鉄道構造物の復旧

環境賞

Iグループ

エンテック(株)/廃棄物をリサイクルした高保水性セラミックスブロックを使用した保水性舗装  
清水建設(株)、(株)陸南専/環境への負荷低減に配慮した特殊膜濾過による新しい高度清浄濁水処理システム  
東邦ガス(株)、大成建設(株)/原位置バイオレメディエーション技術を用いた汚染地盤の環境修復技術の開発  
国土交通省 北陸地方整備局 伏木富山港湾事務所/橋脚基礎杭の施工における分級システムの活用一大量建設汚泥の減量化と再資源化による環境保全  
三村信男/地球温暖化・海面上昇の影響評価と対策に関する一連の研究と国際協働  
中村英夫、林 良嗣、宮本和明、小林良邦、加藤博和、花岡伸也、有村幹治、紀伊雅教、岡田 啓/CUTE(International Comparative Study on Urban Transport and the Environment)プロジェクト

IIグループ

内閣府 沖縄総合事務局 平良港湾事務所、宮古島市 建設部 港湾課/平良港「トゥリバー」地区の自然海岸の保全・活用とサンゴ移植による環境創造  
北海道 札幌土木現業所/稀少種であるエゾホトケドジョウに配慮した河川改修  
国土交通省 関東地方整備局 霞ヶ浦導水工事事務所/環境に配慮した新しいシールド工事の取り組み一石岡トンネル(第2工区)新設工事

論文賞

中村秀治、山本広祐/水圧鉄管の振動原因および特性と振動防止に関する研究(総合題目)  
泉 典洋/水路群の形成機構に関する理論的研究(総合題目)  
上田保司、生頼孝博、田村 武/有効応力に基づく土の三軸方向への凍結線膨張率  
中井 祐/極島正統の仕事と橋梁設計思想  
川村 力、長谷川雅志、谷村幸裕、曾我部正道、東川孝治、佐藤 勉、鳥取誠一/突鉄道構造物の調査に基づくコンクリート構造物の耐久性能照査法に関する研究(総合題目)  
森岡宏之、南 将行、前島俊雄、田坂薫章、Ming Cai、青木謙治/AE計測による大規模地下空洞掘削時の岩盤挙動評価手法に関する基礎的研究  
米田 稔、森澤真輔、坂内 修/子供を対象にした公園土壌直接摂取のリスク評価における粒径の影響

論文奨励賞

市村 強/On Integrated Earthquake Simulator Prototype: Combination of Numerical Simulation and Geographical Information System  
佐山敬洋/分布型降雨流出予測の不確実性評価に関する研究(総合題目)  
操上広志/不飽和地盤における熱一水一応力連成現象に関する解析的研究(総合題目)  
本田泰寛/エヌビック社による鉄筋コンクリート橋建設に関する歴史的研究(総合題目)  
半井健一郎/セメント系複合材料の水和組織形成とイオン平衡を考慮した強相関カルシウム溶脱連成解析(総合題目)  
大西正光、石 磊/独立採算型PFI事業における契約保証金と補助金の影響  
桑江朝比呂/造成された干潟生態系の発達過程と自律安定性

吉田賞

【論文部門】  
岩波光保、横田 弘、伊藤 始/PVA短繊維で補強したRCはりのせん断耐力評価に関する実験的研究  
石橋忠良、菅野貴浩、木野淳一、小林 薫、小原和宏/軸方向鉄筋の内側に円形帯鉄筋を配置した鉄筋コンクリート柱の正負水平変位変位荷重実験

田中賞

【研究業績部門】  
倉西 茂/Aーチ橋の解析法ならびに設計法に関する研究業績  
伊藤 學/吊形式橋梁の動的設計に関する研究業績ならびに吊形式橋梁設計の指導的な研究業績  
【論文部門】  
貝沼重信、細見直史、金 仁泰、伊藤義人/鋼構造部材のコンクリート境界部における経時的な腐食挙動に関する研究  
紀平 寛、田辺康児、楠 隆、安波博道、田中陸人、松岡和己/耐候性鋼の腐食減耗予測モデルに関する研究  
【作品部門】  
女神大橋、下植野高架橋の橋梁移植、七色高架橋、新北九州空港連絡橋、紀勢宮川橋、桂島高架橋

技術開発賞

田中健一、中村 信、登坂敏雄、森 直樹、平野健吉/初期高強度吹付けコンクリートを用いた新支保パターンによるNATMトンネルの急進施工技術  
向井寛行、北岡 晃、武田信一、大橋一、橋本 聡/新型SMW工法(UD-HOMET)の開発  
久保正顕、三反畑勇、加藤 満、五十嵐勝、市川壽士/軟弱粘性土地盤を改良する気水分離方式真空圧密工法(高真空N&H工法)の開発  
石橋忠良、菅野貴浩、小林 薫、小原和宏、木野淳一/大規模地震時に崩壊しにくい内巻きスパイラルRC柱の開発

出版文化賞

福岡権二/洪水の水利と河道の設計法  
篠原 修/土木デザイン論

国際貢献賞

宮澤昭七、野田節男、荒牧英城、Alfredo H-S. Ang

国際活動奨励賞

上村博文、小松博史、堀越研一、金井晴彦、石塚一郎、伊東雅幸、小野崎寛和、内田 滋、片山正巳、杉浦邦征、野中晴美、高倉和彦、近藤 升、藤野智幸、藤森祥弘

技術功労賞

丸山 繁(教育・研究・啓発の分野)/佐藤剛司(教育・研究・啓発の分野)/衣川克郎(教育・研究・啓発の分野)/篠原成典(施工・検査の分野)/二ノ方勇一(施工・検査の分野)/向谷常松(施工・検査の分野)/田辺英雄(施工・検査の分野)/渡部好弘(調査・計画等の分野)/小山内政廣(教育・研究・啓発等の分野)/片寄紀雄(調査・計画等の分野)

## 吉田研究奨励賞募集要項

1. 候補対象 コンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリートに関する研究に従事し、特に独創性があり将来性に富むと認められる者の個人または複数（3名以内）。ただし、応募締切時において満40歳以下の本学会員に限る。原則として、すでに吉田研究奨励賞（平成4年度までは吉田研究奨励金）を授与された者を除く。
2. 募集の方法 候補者対象者本人の応募による。
3. 応募の方法 所定様式により研究計画書を提出する。（計画書の様式は本会ホームページより取り出せます。取り出せない場合は、土木学会本部企画総務課または各支部にお問合わせください。）
4. 審査 吉田賞選考委員会において、研究計画を審査し、授賞者および賞金額を決定する。
5. 表彰 第93回通常総会にて行い、賞状および賞金を贈る。
6. 応募の締切期日 平成19年1月19日（金）（必着）
7. 提出先 〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目（外濠公園内）土木学会 吉田賞選考委員会
8. 研究成果の報告 研究成果概要報告書あるいは中間概要報告書を平成20年4月10日までに吉田賞選考委員会に提出するほか、研究計画終了翌年度の年次学術講演会または土木学会刊物において吉田研究奨励賞を授与された研究であることを明らかにして発表しなければならない。ただし、この場合、被授与者以外の者を連名者に加えることはできるが、講演者または筆頭者にしないものとする。また、前記以外に発表する場合は、吉田研究奨励賞を授与された研究である旨を明記しなければならない。

※土木学会吉田賞「国際研究集会等への参加援助制度」については、平成18年度から当面の間、実施しないことといたしました。

## 平成19年度論文賞および論文奨励賞の候補対象の変更について

来年度（平成19年度）より、土木学会論文賞および論文奨励賞の候補対象が下記の様に変更になります。推薦（応募）される際は、ご注意ください。

### ◆論文賞

総合題目での推薦（応募）をとりやめ、候補論文は単一論文となります。ただし、研究の経緯等で必要な場合は、過去4年以内に発表された論文（学会関係に限定）を2編まで参考論文とすることは認められます。

### ◆論文奨励賞

論文賞と同様に、総合題目での推薦（応募）をとりやめ、候補論文は単一論文となります。ただし、研究の経緯等で必要な場合は、過去4年以内に発表された論文（学会関係に限定）を2編まで参考論文とすることは認められます。また、候補論文は、候補者が筆頭著者の論文のみとし、筆頭著者でない論文は参考論文となります。

## 海外の協定協力学会

|    |       |                 |
|----|-------|-----------------|
| 1  | ASCE  | (米国土木学会)        |
| 2  | CCES  | (中国土木工程学会)      |
| 3  | CICHE | (中国土木水利工程学会)    |
| 4  | CNISF | (フランス科学・技術者会議)  |
| 5  | CSCE  | (カナダ土木学会)       |
| 6  | ECCE  | (ヨーロッパ土木技術者評議会) |
| 7  | EIT   | (タイ工学会)         |
| 8  | FECIC | (メキシコ土木学会)      |
| 9  | HKIE  | (香港工程師学会)       |
| 10 | ICE   | (英国土木学会)        |
| 11 | EA    | (オーストラリア工学会)    |
| 12 | IES   | (シンガポール工学会)     |

|    |        |                 |
|----|--------|-----------------|
| 13 | IEB    | (バングラデシュ工学会)    |
| 14 | IEI    | (インド工学会)        |
| 15 | IEM    | (マレーシア工学会)      |
| 16 | IEP    | (パキスタン工学会)      |
| 17 | KSCE   | (大韓土木学会)        |
| 18 | MACE   | (モンゴル土木学会)      |
| 19 | NEA    | (ネパール技術者協会)     |
| 20 | PICE   | (フィリピン土木学会)     |
| 21 | SVR    | (スウェーデン土木構造工学会) |
| 22 | TCCE   | (トルコ土木学会)       |
| 23 | VIFCEA | (ベトナム土木工学会連合)   |
| 24 | IEI    | (インドネシア工学会)     |

## 技術功労賞候補対象者の例

本賞は、日々の業務を通じ、土木技術・技能の発展や継承に尽くし、地域に貢献したものを対象としている。その対象分野としては、次の6分野がある。以下にその例を示す。

### (1) 教育、研究、啓発

- ①土木教育において長年実験実習等（OJT等職場での教育を含む）に携わったもの。また、教育方法の改善に役立つ、創意工夫を加えたもの。
- ②実験、試験、研究、実験・試験機器の試作・改良に従事し、それらの促進に寄与する貴重な成果をあげることに貢献したもの。
- ③土木工学を紹介する書物や映像の制作などに長年従事し、土木工学に対する一般大衆の理解を高めるなど、啓発活動に地道な努力を傾注したもの。

### (2) 調査、計画

- ①自然条件の観測、地形測量、図書、資料、統計データの収集、整理、分析、解析等に従事し、貴重な資料作成に貢献したもの。
- ②長年の経験を生かし、プロジェクトの調査・計画に成果をあげたもの。
- ③環境問題を考慮したプロジェクトに貢献のあったもの。

### (3) 設計、監理

- ①各種土木構造物の設計あるいは監理業務に従事し、貢献をしたもの。
- ②長年の経験を生かし、土木構造物の設計に貢献のあったもの。
- ③長年の経験を生かし、合理的な監理手法や検査方法の改良に貢献のあったもの。

### (4) 用地、補償

- ①事業遂行に向け、境界確定、用地取得、区画整理、漁業補償等の交渉に従事し、数多くの貢献を果たしたもの。
- ②用地取得、補償の実施に際し必要となる基準等に関する資料収集、調査、研究、整備に数多くの貢献のあったもの。

### (5) 施工、検査

- ①事故防止のため、施工の安全高揚に精励し、数多くの貢献を残したもの。
- ②工事現場に長年従事し、機械化の推進や施工方法の改善、衛生的な事務所や宿舎の確保など労働環境の改善に貢献したもの。
- ③施工に関し、独自の検査方法を考案するなど品質の向上に多くの貢献があったもの。

### (6) 管理、運用、防災、保全

- ①長年にわたって、維持・管理業務に従事し、事故や災害を未然に防ぐために献身的に業務を遂行し、さらに業務の改善に地道な努力を行っているもの（例えば、鉄道や道路、河川施設、港湾施設、上下水道、廃棄物処理場などの維持・管理業務）。
- ②各種の管理システムや運用システム、防災システム、保全システムについて、長年にわたり個々の技術やシステムの開発、改善に努め、省力化や省エネルギー化、効率化に貢献のあったもの。
- ③土木構造物（敷地を含む）の安全管理や保全に長年従事し、貢献のあったもの。

以上

## 土木学会委員会所管の表彰制度紹介

### ■【第 22 回土木学会映画・ビデオコンクール】(映画・ビデオコンクール審査委員会)

土木学会の映像作品に関するコンクールは 1964(昭和 39)年に第 1 回を開催してから 2 年ごとに行っており、今回は第 22 回となります。従来は土木学会選定作品のうちコンクールへの応募のあったものを審査対象としていましたが、今回から一般公募に変更し、より広い対象からの審査を行うこととしました。コンクールの目的は、土木学会会員はもとより、学生も含めた広く社会一般の方々に対して、土木に関わるさまざまな事柄、すなわち、社会基盤整備や土木技術の実際、そこで活躍する人々などを、映像を通して紹介を行い、それらに対する理解を深め、あるいは感銘を与え、また関心を高めることにより、社会基盤整備に対する適切な理解、土木技術の発展、土木技術者の資質と社会的評価の向上に資する、優れた映像作品を顕彰し、その企画者、製作者を表彰することです。

審査対象は以下の推薦要領にもとづく一般公募により、コンクールに応募した作品とします。

◎募集期間：2006(平成 18)年 10 月 1 日～2007(平成 19)年 1 月 19 日

●問合せ先：事務局図書館業務室 坂本真至 TEL.03-3355-3596 E-mail : sakamoto@jsce.or.jp

### 土木学会映画・ビデオコンクール推薦要領

#### ●候補の対象

土木学会会員はもとより、学生も含めた広く社会一般の方々に対して、土木に関わるさまざまな事柄、すなわち、社会基盤整備や土木技術の実際、そこで活躍する人々などを、映像を通して紹介を行い、それらに対する理解を深め、あるいは感銘を与え、また関心を高めることにより、社会基盤整備に対する適切な理解、土木技術の発展、土木技術者の資質と社会的評価の向上に資する、優れた映像作品を対象とする。

#### ●受賞候補者

土木学会会員に限らない。

#### ●候補の範囲

以下の条件を満たす映像作品を候補対象とする。

1. 2003(平成 15)年 4 月以降完成の映像作品であること。
2. 市販された映像作品あるいは図書館などでの公開が保証されている映像作品であること。フィルム、ビデオの他 CD、DVD などの電子媒体を含む。ただし土木学会企画・製作のものは除く。
3. 新規の映像作品として一定の水準を確保しているものであること。企業 PR、資格試験の手引き、製品マニュアル、工法便覧などの単なる説明映像や、従来作品のリメイク版で一部のみが修正された映像作品などは除く。

#### ●推薦の方法

1. 推薦資格者：本会会員に限る。
2. 推薦件数
  - ・本会会員は 2 件以内。
  - ・土木学会土木技術映像委員会委員長は土木学会選定作品の中から 5 本まで推薦できる。
3. 推薦の手続き

推薦作品に関わる下記の項目を所定の推薦用紙(HP に掲載)にて土木学会映画・ビデオコンクール審査委員会宛提出する。

提出方法は郵便、FAX、E-mail 等いずれも可。

- a. 推薦者氏名・会員種別
- b. 推薦者所属
- c. 推薦者連絡先(住所・電話番号・FAX 番号・E-mail アドレス)
- d. 推薦作品名・企画者名、製作者名、監督名、製作年月日
- e. 作品内容紹介(200 字程度)
- f. 推薦文(推薦作品の優れている点、土木への貢献度を 500 字以内にまとめる)

(注)すでに土木学会選定作品となっているもの以外は推薦書に必ず当該作品 1 本を添えて提出(寄贈)のこと。

#### ●審査

土木学会映画・ビデオコンクール審査委員会にて行う。

(内容説明会等は開催しません。賞に関わる事前説明は固くお断りいたします。)

#### ●表彰

第 93 回通常総会において行い、企画者(および明示されている場合には監督)には賞状、賞牌を贈る。また、同時に受賞作品の製作者に対して感謝状を贈呈する。

#### ●締切期日

平成 19 年 1 月 19 日(金)(必着)

#### ●提出先

〒160-0004 新宿区四谷 1 丁目(外濠公園内)

(社)土木学会 映画・ビデオコンクール審査委員会

TEL.03-3355-3596 / FAX.03-3355-6055 E-mail : library@jsce.or.jp

### ■【土木学会選奨土木遺産】(土木学会選奨土木遺産選考委員会)

選考の対象は、交通(道路、鉄道、港湾、河川、航空、灯標)、防災(治水、防潮、防風)、農林水産業(灌漑、干拓、排水、営林、漁港)、エネルギー(発電、炭田、鉱山)、衛生(上下水道)、産業(工業用水、造船)、軍事などの用途に供された広義の土木関連施設を対象とする。事業単位、もしくは、構造物単位の両方が対象となり得る。なお、対象となる建造年代は、当面、全国調査が完了している近代(幕末～昭和20年代)に完成したものに限定する。近世以前や昭和戦後(竣工後50年経過した段階で順次対象とする)についても、同様の調査が終了した段階で、選考対象に追加される。

●問合せ先：事務局企画総務課 岩西伸介 TEL.03-3355-3442 E-mail: iwanishi@jsce.or.jp

### ■【水工学論文賞、水工学論文奨励賞】(水工学委員会)

水工学論文集に掲載された論文の中から優秀論文の選考を行う。

最優秀論文(1編程度)に対して水工学論文賞を、優秀論文のうち、水工学講演会での32歳以下の若手の発表者(3名程度)に対して、水工学論文奨励賞を授与する。

●問合せ先：事務局研究事業課 熊谷直幸 TEL.03-3355-3559 E-mail: kuma@jsce.or.jp

### ■【海岸工学論文賞、CEJ論文賞】(海岸工学委員会)

海岸工学論文賞：海岸工学論文集に掲載され、かつ海岸工学講演会において発表を行った論文のうち、海岸工学における学術・技術の進歩発展に寄与し、独創性および将来性に富むものと認められるもの(3編程度)に授与する。

CEJ論文賞：Coastal Engineering Journalに掲載された論文のうち、海岸工学における学術・技術の進歩発展に寄与し、独創性と将来性に富むと認められた評価の高い論文に対して授与する。

●問合せ先：事務局研究事業課 熊谷直幸 TEL.03-3355-3559 E-mail: kuma@jsce.or.jp

### ■【環境工学研究フォーラム論文賞、奨励賞、環境技術・プロジェクト賞、優秀ポスター発表賞】(環境工学委員会)

「審査付き論文セッション」で行われる発表の中から論文賞と奨励賞を、「環境技術・プロジェクトセッション」の発表の中から「環境技術・プロジェクト賞」を、また「自由投稿発表セッション」の発表の中から優秀ポスター発表賞を選考する。

●問合せ先：事務局研究事業課 佐々木淳 TEL.03-3355-3559 E-mail: ssk@jsce.or.jp

### ■【地球環境技術賞、地球環境貢献賞、地球環境論文賞、地球環境講演論文賞】(地球環境委員会)

技術賞：地球環境シンポジウムにおける展示の中で、地球環境問題の解決に貢献する土木・環境技術の開発および普及の観点から特に優れていると認められた展示(3件程度)に授与する。

貢献賞：地球環境シンポジウムにおける展示の中で、地球環境問題の解決に貢献する活動の観点から特に優れていると認められた展示(3件程度)に授与する。

論文賞：Journal of Global Environment Engineeringに地球環境問題に関する論文を発表し、これが土木・環境工学における学術・技術の進歩発展に独創的な業績を挙げ、顕著な貢献をしたと認められたもの(1件程度)に授与する。

講演論文賞：地球環境シンポジウム講演論文集に地球環境問題に関する論文を発表し、これが土木・環境工学における学術・技術の進歩発展に寄与し、独創性と将来性に富むと認められたもの(3件程度)に授与する。

●問合せ先：事務局研究事業課 佐々木淳 TEL.03-3355-3559 E-mail: ssk@jsce.or.jp

### ■【環境システム優秀論文賞、環境システム論文奨励賞、環境システム優秀発表賞】(環境システム委員会)

◎募集時期：規定を委員会ホームページ上で公開(平成16年度より従来の優秀ポスター賞に代わり3賞を新設)

環境システム優秀論文賞：環境システム研究論文集に掲載された論文から、環境システムに関して独創的な業績を挙げ、これが環境システムにおける学術・技術の進歩、発展に顕著な貢献をなしたものを選考し、授与する。

環境システム論文奨励賞：環境システム研究論文集に掲載された論文の著者から、環境システムにおける学術・技術の進歩、発展に寄与し、独創性と将来性に富むもので、受賞者の年齢が発表会開催年度の4月1日で満36歳未満であるものを選考して授与する。

環境システム優秀発表賞：環境システム研究論文発表会における発表のうち、ポスター発表については、美しさ、わかりやすさ、ユニークさを、口頭発表については明快さ、説得性、質疑への応答的確さを主たる評価の対象として選考し、授与する。

●問合せ先：事務局研究事業課 佐々木淳 TEL.03-3355-3559 E-mail: ssk@jsce.or.jp

### ■【デザイン賞】(景観・デザイン委員会)

デザイン賞は、道路・街路・広場・公園・駅舎・河川・海岸・港湾・空港等の公共空間や、橋梁・堰堤・水門・閘門・堤防等の構造物等、実現した作品を対象として、特にその周囲との景観的、空間的関連のもたせ方や、当該の空間・構造物に対する機能的要請を美的にどう解決したかという観点に照らして、優れた作品を公募、選定、表彰するものである。本賞は、優れた作品を選定だけでなく、その実現に実質的に貢献した人々についても顕彰することを目的としている。また、耐久性が要求される公共空間や構造物を竣工直後に評価するのは難しいとの考えから、審査対象を竣工2年以上経過したものとしているのが特徴である。

●問合せ先：事務局研究事業課 橋本剛志 TEL.03-3355-3559 E-mail: hashimoto@jsce.or.jp

#### ■【構造工学シンポジウム論文賞】(構造工学委員会)

構造工学論文集に掲載され、かつ構造工学シンポジウムにおいて講演を行った論文のうち、構造工学における学術・技術の進歩発展に寄与し、独創性および将来性に富むと認められた評価の高い論文に授与されるものである。

●問合せ先：事務局研究事業課 岡部俊子 TEL.03-3355-3559 E-mail: oka@jsce.or.jp

#### ■【応用力学論文賞、応用力学論文奨励賞、小林メダル】(応用力学委員会)

応用力学論文賞：応用力学論文集に掲載され、かつ応用力学シンポジウムにおいて講演を行った論文のうち、応用力学における学術・技術の進歩発展に寄与し、独創性および将来性に富むものと認められるものに授与する。

応用力学論文奨励賞：応用力学論文賞に準ずる優れた論文のうち、発表年の4月1日において満36歳未満の著者に授与する。

小林メダル：独創性および将来性に富み、極めて優れた成果を上げた論文あるいは論文群の著者ないし著者グループに授与する。

●問合せ先：事務局研究事業課 岡部俊子 TEL.03-3355-3559 E-mail: oka@jsce.or.jp

#### ■【舗装工学論文賞】(舗装工学委員会)

舗装工学論文集に掲載された論文の中から優れたものを選定して表彰する。

募集時期：例年4月に募集告知

●問合せ先：事務局研究事業課 今村玲子 TEL.03-3355-3559 E-mail: imamura@jsce.or.jp

#### ■【トンネル工学研究発表会優秀講演者表彰】(トンネル工学委員会)

トンネル技術を担う、または将来を担う研究者および技術者の論文・報告内容や講演技術の向上、さらに、トンネル工学研究発表会の活性化を目的として定めたものであり、トンネル工学研究発表会において、実際に講演を行った研究者ならびに技術者を対象に、論文・報告内容の講演が簡潔明瞭で優れたものに授与する。

募集時期：例年3月に募集告知

●問合せ先：事務局研究事業課 川島一哲 TEL.03-3355-3559 E-mail: kawashima@jsce.or.jp

#### ■【岩盤力学に関するシンポジウム優秀講演論文賞、優秀ポスター賞】(岩盤力学委員会)

岩盤力学に関するシンポジウムにおいて講演を行った論文の中で、原稿と発表の内容が非常に優れているものに対して授与する。

優秀講演論文賞：原稿と発表(口頭またはポスター)が優れたものに対して授与する。原稿で「応用性・実用性」、「新規性・重要性」、「完成度」、「将来性・発展性」を審査する。また、発表で「発表内容と研究の完成度」、「わかりやすさ」、「口頭発表資料(パワーポイント)またはポスターの出来映え」、「質疑応答」について審査する。

優秀ポスター賞：原稿と発表(ポスター)が優れたものに対して授与する。原稿で「応用性・実用性」、「新規性・重要性」、「完成度」、「将来性・発展性」を審査し、シンポジウム参加者の投票結果も加味して選考する。

●問合せ先：事務局研究事業課 岡部俊子 TEL.03-3355-3559 E-mail: oka@jsce.or.jp

#### ■【地震工学研究発表会論文賞・論文奨励賞】(地震工学委員会)

地震工学論文集に掲載され、発表を行った著者全員が論文賞受賞候補者となり、研究発表会終了時点で36歳未満の第一著者が論文奨励賞受賞候補者となる。

募集時期：発表会開催年の1月に募集告知

●問合せ先：事務局研究事業課 今村玲子 TEL.03-3355-3559 E-mail: imamura@jsce.or.jp

#### ■【情報利用技術シンポジウム優秀発表賞】(情報利用技術委員会)

情報利用技術シンポジウムにおいて講演を行ったなかで、原稿と発表の内容が非常に優れている学生に対して授与する。

募集時期：例年5月に募集告知

●問合せ先：事務局研究事業課 今村玲子 TEL.03-3355-3559 E-mail: imamura@jsce.or.jp

#### ■【国際研究集会等への参加援助制度】(吉田賞選考委員会)

平成18年度から当面の間、実施しないことといたしました。

#### ■【木橋技術に関するシンポジウム優秀賞】(鋼構造委員会)

木橋技術に関するシンポジウムで発表された論文報告のうち、独創的かつ水準が高く木橋技術の進歩への貢献が認められ、発表対応にも顕著に優れたものに対して授与する。

●問合せ先：事務局研究事業課 佐々木淳 TEL.03-3355-3559 E-mail: ssk@jsce.or.jp